

読んでみたい この一冊

大阪産業経済リサーチセンター
主任研究員 小野 顕弘

日経 BP 総研 2030 年展望 ビジネスを揺るがす100のリスク

●日経 BP 総研 編著 日経 BP 社 2,000 円 (税別)



パソコンや携帯電話、スマホなどの情報機器の普及が進み、さらにECやSNSなどの様々なソフトやアプリが開発されたことによって、人々のコミュニケーションや生活スタイルが大きく変わってきました。今後は、自動運転による新たな移動手段の開発や、無人店舗の開設、個人のニーズに合わせた様々なパーソナルサービスの開発など、さらに便利で快適な生活の実現に向けて、世界が動き出しています。そのような消費者の生活の変化に対して、企業もITを活用して新たな商品やサービスの開発提供を行うとともに、製造・物流などの工程において効率化・合理化を図ることで、競争力の強化を進めています。それらの動向は、第四次産業革命やSOCIETY5.0などと呼ばれ、近年ますます注目されてきています。

しかし、このような大きな変化はこれまでの技術や仕組みを凌駕するため、それらにうまく対応できなければ、逆に大きな危機にもなります。そのような視点から、今後期待される可能性に対して、それらはどのようなリスクになりえるのか、またその対応はどのようにすべきなのか、というテーマについて、ヒントを提供するのが本書です。

本書では、様々な分野の専門家である日経BP総研の研究員やコンサルタントなどが、最新の情報などから、将来に起こる可能性の高いリスクについて10のテーマを取り上げています。

リスクと一口に言っても、二酸化炭素などによる気候温暖化やプラスチック製品による海洋汚染などの地球環境問題、市場競争による所得格差や市場成熟化による個人の志向の多様化の進展、少子化や高

齢化の進展による市場変化や雇用・社会制度の問題など、そのテーマは幅広く、またそれらが相互に影響しあうため、将来の予測は大変難しいものとなります。そのため、本書では、ビジネス的視点から、今後発生する可能性が高く、かつ影響の大きいテーマを中心に整理を行っています。例えば、近年特に注目度の高いAIについては、スマートスピーカーなど具体的な商品やサービスの展開が始まっている一方で、開発技術者不足という課題がすでに発生しており、さらに不正データの流入リスクや外部からのデータ操作リスク、それに伴うAIの判断ミスのリスクなどもあり、理想の実現にはクリアすべき課題も多いということに改めて気づかせてくれます。さらに、人はリスクには気づくことはできても、「自分は大丈夫なはず」という思い込みがあり、実際の対策への行動を鈍らせるという問題があり、そのために「アサンプションマネジメント (将来予測時に設定した仮定や想定が確かであるか確認し対応すること)」が重要で、それによりリスクをチャンスに変えるべきとの指摘は、これからの企業経営において大きなヒントになるでしょう。

【著者略歴】

日本経済新聞社の100%子会社、日経BP社のリサーチ&コンサルティング部門。日経ビジネスなど経営誌、日経トレンディなど生活情報誌、日経メディカルなど技術専門誌の編集長や記者経験者など、総勢80人を抱え、企業や団体の経営改革、人材戦略、事業創出、マーケティング・顧客開拓を支援している。